

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	静岡県立大学
設置者名	静岡県公立大学法人

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページに掲載 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/media/H30zaimusyohyou.pdf
収支計算書又は損益計算書	ホームページに掲載 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/media/H30zaimusyohyou.pdf
財産目録	—
事業報告書	ホームページに掲載 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/media/H30zigyohoukoku.pdf
監事による監査報告(書)	ホームページに掲載 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/media/H30kansakanji.PDF

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:静岡県公立大学法人 令和2年度年度計画 対象年度:令和2年度)
公表方法:ホームページに掲載 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/corporate-info/plan-achievement/year-plan/
中長期計画(名称:静岡県公立大学法人 第3期中期計画 対象年度:令和元年度~令和6年度)
公表方法:ホームページに掲載 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/corporate-info/plan-achievement/midterm-plan/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:ホームページに掲載 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/disclosure/evaluation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:ホームページに掲載 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/disclosure/evaluation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 薬学部
教育研究上の目的 (公表方法: 大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/disclosure/ed-information/)
(概要) 医療の進歩に対応できる専門的な知識・技術を有し、高い資質を身に付けた薬剤師を養成し、及び医薬品に関連する基礎知識・技術を習得し、創薬・育薬を総合的に理解できる人材を養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/pharmaceutical-sciences/pha-policy/)
(概要) 以下に示した資質を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士(薬科学)又は学士(薬学)の学位を授与する。
(薬科学科: 4年制)
1 幅広い教養と語学力 ・国内外の様々な分野で活躍するための広範で深い教養を身につけている。 ・グローバルに活躍できる語学力を有し、国際感覚を身につけている。
2 科学者としての倫理観 ・生命の尊厳を守るための強い倫理観を身につけている。 ・社会や公益に対する研究活動の責任・使命を理解し、健全な科学倫理観を身につけている。
3 高度な知識と技能 ・物理学・化学・生物学を基盤とする薬学的基礎知識・技能とその応用展開能力を身につけている。 ・創薬・生命薬学研究に必要な複数の薬学専門領域に関する知識・技能を身につけている。
4 独創性と問題解決能力 ・創薬・生命薬学研究者に求められる独創性や問題解決の基礎的な能力を身につけている。 ・創薬・生命薬学研究を自ら計画・遂行する知識及び技術的基盤を身につけている。
5 自己研鑽 ・創薬・生命科学に関わる研究者として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を身につけている。
(薬学科: 6年制)
1 幅広い教養と語学力 ・医療人に求められる高い教養を身につけている。 ・グローバルに活躍できる語学力を有し、国際感覚を身につけている。
2 医療人としての倫理観 ・生命倫理及び患者の人権を最優先するという強い倫理観を身につけている。 ・患者の命を守るという強い責任感・使命感を身につけている。
3 高度な知識と技能

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎科学に裏打ちされた最先端の医療知識と技能を有している。 ・情報共有及び課題解決に必要なコミュニケーション能力を身につけている。 <p>4 高い臨床能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療現場で遭遇する様々な問題を発見・解決する臨床的な能力を身につけている。 ・薬物療法を提案・遂行する能力を身につけ、チーム医療に貢献できる。 ・医療薬学に根ざした研究を計画・遂行する能力を身につけている。 <p>5 自己研鑽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療人として、常に自己を評価・省察し、さらに自らを高める意欲を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/pharmaceutical-sciences/phapolicy/）</p>
<p>（概要）</p> <p>（薬科学科：4年制）</p> <p>薬がヒトに使われることを自覚し、創薬科学や生命科学の未来を担い得る、幅広い専門知識と技能を有する人材を育成するのみならず、自然科学や社会科学の様々な分野で指導的に活躍できる創造力豊かな人材を育成します。研究者・技術者として高度な専門知識と技能を習得するため、大学院への進学を想定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の様々な分野で活躍するための広範で深い教養を身につけさせる ・物理・化学・生物を基盤とする薬学的基礎知識・技能とその応用展開能力を身につけさせる ・世界に通用する語学力を身につけさせる ・研究者・技術者に求められる独創性や問題発見・問題解決能力を身につけさせる ・健全な科学倫理を養わせる <p>（薬学科：6年制）</p> <p>豊かな人間性と医療人としての品格を持ち、科学に立脚した最先端の薬物治療を行う能力とともに、医療薬学領域の研究を遂行する能力を兼ね備えた薬剤師を育成します。病院・薬局などの医療現場で活躍し多職種連携に貢献できる人材だけでなく、県民や国民の安心・安全のために薬務行政・保健衛生に従事する人材や企業等において研究開発に携わる人材を育成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療人に求められる高い教養と世界に通用する語学力を身につけさせる ・患者主体の立場で寄り添う倫理観と強い使命感を養わせる ・基礎科学に裏打ちされた最先端の医療知識と技能を身につけさせる ・問題点を発見・解決する能力や研究を計画・遂行する能力を身につけさせる ・薬物療法を提案し実行する能力を身につけさせる ・最先端のレギュラトリーサイエンスを理解させる ・生涯にわたって自己研鑽し、後進の教育に積極的に関わる使命感を養わせる
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/pharmaceutical-sciences/phapolicy/）</p>
<p>（概要）</p> <p>（薬科学科：4年制）</p> <p>倫理観を含め大学人としての教養を身につけ、世界に通用する語学力を養うとともに、薬学の基盤となる知識とその応用展開能力を醸成し、医薬品の研究・開発で活躍できる人材の育成に努めている。また、大学院への進学を想定して、創薬・生命薬学研究を担う創造力豊かな研究者や高度専門職業人の養成を目指している。これらの教育目標及び方針に立脚し、健全な倫理観を備え、薬学人として社会に貢献したいという強い信念と情熱を持ち、学習意欲と科学的探求心を有し、社会のニー</p>

ズに柔軟に対応できる創造力と論理的思考力を有する人材を歓迎する。加えて、基礎薬学に軸足を置き、物理学・化学・生物学を基盤とした創薬研究や生命薬学研究に高い集中力で取り組める学生を求めている。

(薬学科：6年制)

倫理観を含め大学人としての教養を身につけ、世界に通用する語学力を養うとともに、薬学の基盤となる知識とその応用展開能力を醸成し、医療現場で活躍できる人材の育成に努めている。また、医療の担い手として貢献する指導的立場の薬剤師や医療薬学領域の研究者の養成を目指している。これらの教育目標及び方針に立脚し、健全な倫理観を備え、薬学人として社会に貢献したいという強い信念と情熱を持ち、学習意欲と科学的探求心を有し、社会のニーズに柔軟に対応できる創造力と論理的思考力を有する人材を歓迎する。加えて、医療や薬物治療に対する問題意識を常に持ち、他者と意見交換しながら論理的に問題解決へ向けて取り組む学生を求めている。

学部等名 食品栄養科学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/disclosure/ed-information/>)

(概要)

食品・栄養・環境に関する基礎知識及び関連する基本的技術を習得し、「食と健康」に関する科学の発展と実践に貢献できる人材を養成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/food-nutrition/nut-policy/>)

(概要)

以下に示す力を身に付けるために編成された教育課程において学修し、所定の期間在学して卒業に必要な単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（食品栄養科学）の学位を授与する。

(食品生命科学科)

- 1 幅広い教養を身に付けた上で、食と健康に関わる食品科学を理解するために必要な自然科学および情報技術などに関する基礎知識を有している。
- 2 食品科学に関する広範な知識と関連技術に基づき、食品に関わる諸問題の解決策を提示できる論理的思考力と問題解決能力を備えている。
- 3 食品科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用して研究する能力を備えている。
- 4 食品科学に関する専門英語を理解し、英語による基礎的なコミュニケーション能力を有している。
- 5 豊かな人間性と食の安全に対する高い倫理観を有し、協調性や指導力をもって他職種と協働・連携することができる。
- 6 食品技術者としての社会的な役割と責任を理解し、食品関連産業の発展に貢献することができる。

(栄養生命科学科)

- 1 幅広い教養を身に付けた上で、食と健康に関わる栄養科学を理解するために必要な自然科学および情報技術などに関する基礎知識を有している。
- 2 食と健康に関する広範な知識と関連技術を駆使して、栄養に関わる諸問題の解決策を提示できる論理的思考力と問題解決能力を有している。
- 3 栄養科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用して研

究する能力を備えている。

- 4 栄養科学に関する専門英語を理解し、英語による基礎的なコミュニケーション能力を有している。
- 5 創造性あふれる豊かな人間性と栄養科学の専門家としての倫理観を有し、協調性や指導力をもって他職種と協働・連携することができる。
- 6 管理栄養士として人間の健康と長寿を支える栄養に関わる諸問題の解決に貢献することができる。

(環境生命科学科)

- 1 幅広い教養を身につけた上で、食と健康に関わる環境科学を理解するために必要な自然科学および情報技術などに関する基礎知識を有している。
- 2 食と健康に関わる環境分野の知識と技術に基づき、環境に関わる諸問題の解決策を提示できる論理的思考力と問題解決能力を備えている。
- 3 環境科学と生命科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用して研究する能力を備えている。
- 4 環境に関する専門英語を理解し、英語による基礎的なコミュニケーション能力を有している。
- 5 豊かな人間性と環境保全に対する高い倫理観を有し、協調性や指導力をもって他職種と協働・連携することができる。
- 6 環境計量と環境・生体影響評価に関する知識や技術を修得し、環境保全や食の生産に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/food-nutrition/nut-policy/>)

(概要)

(食品生命科学科)

食品生命科学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、教養科目および専門科目を系統的かつ段階的に学べるよう、次に示すカリキュラムを編成している。

- 1 全学共通科目の履修により幅広い教養を身につけた上で、「化学」「物理学」「生物学」「情報科学」などの学部基礎科目を履修し、食と健康に関わる食品科学の理解に必要な基礎知識と基礎技術を培う。
- 2 専門教育科目で食と健康に関わる科目を履修し、食品栄養科学と生命科学に関する広範かつ専門的知識と方法論を身につける。
- 3 実験・実習を履修し、広範な知識と関連技術を駆使して問題を解決できる能力を養うとともに、卒業研究などの科目を履修し、食品科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用して研究する能力を養う。
- 4 英語科目の履修により、英語による基礎的なコミュニケーション能力を養う。
- 5 専門科目として「技術者倫理」などの科目を履修し、食品技術の社会に対する効果を地球規模で理解するとともに、食品技術者の社会に対する責任への理解・倫理観を醸成する。
- 6 実習科目や卒業研究などの科目の履修を進める過程で、食品技術者として計画的に仕事を遂行できる能力を養い、協調性や指導力を育成する。

1～2年次には、化学、物理学、生物学、英語などの学部基礎科目を重点的に学ぶ。2～3年次には、食品化学、食品工学、有機化学、微生物学、食品衛生学などの専門科目が実験や実習とともに配置されている。4年次には、研究室に配属されて卒業研究を行い、卒業論文にまとめて発表する。学修成果の評価は、各科目の到達目標に対応して行う。

(栄養生命科学科)

栄養生命科学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、教養科目および専門科目を系統的かつ段階的に学べるよう、次の通りカリキュラムを編成している。

- 1 全学共通科目の履修により幅広い教養を身に付けた上で、「化学」「化学実験」「生物学」「生物学実験」などの学部基礎科目を履修し、食と健康に関わる栄養科学の理解に必要な基礎知識と基礎技術を培う。
- 2 専門教育科目として、栄養科学に関する専門基礎分野と専門分野の科目をそれぞれ体系的に設置し、食と健康に関する広範かつ専門的知識と方法論を身につける。
- 3 校内での実験実習、校外実習、臨地実習、総合演習を配置し、管理栄養士の役割と責務を自覚するのみならず、管理栄養士として必要な知識や倫理観、実践的な能力および食と健康に関する諸問題の発見、分析、解決へとつなげる力を醸成する。
- 4 栄養に係る教育や教職に関する科目を配置し、栄養教諭の職務である「食に関する指導」と「学校給食の管理」の基礎力と応用力を身につけ、高度なコミュニケーション能力や豊かな人間性と倫理観を備え、多面的な問題解決能力と実力を養う。
- 5 学部共通科目の英語科目および栄養に関する科学英語科目を配置し、英語による情報収集や基礎的なコミュニケーションができる能力を育成する。
- 6 身につけた知識やスキルを統合し、卒業研究に取り組み、栄養科学に関する知識・技術・情報を自ら収集・理解し、それらを活用する能力を身につける。さらに、卒業論文の作成、発表を通じて論理的な記述・発表・質疑応答・討論ができる能力を養う。

1～2年次には、化学、物理学、生物学、英語などの学部基礎科目を重点的に学ぶ。2～3年次には、生化学、生理学、食品化学、調理化学、基礎および応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論などの専門科目が実験や実習とともに配置されている。4年次には、研究室に配属されて卒業研究を行い、卒業論文にまとめて発表する。

学修成果の評価は、各科目の到達目標に対応して行う。

(環境生命科学科)

環境生命科学科では、ディプロマ・ポリシーに基づき、教養科目および専門科目を系統的かつ段階的に学べるよう、次に示すカリキュラムを編成している。

- 1 全学共通科目の履修により幅広い教養を身につけた上で、「化学」「化学実験」「生物学」「生物学実験」などの学部基礎科目を履修し、食と健康に関わる環境科学の理解に必要な基礎知識と基礎技術を培う。
- 2 専門教育科目で食と健康に関わる科目を履修し、さらにフィールドワークや環境生命科学実験の履修を通して、環境分野における諸問題を解決へとつなげる力を養う。
- 3 環境科学と生命科学に関する専門教育科目を履修した上で卒業研究に取り組み、研究する力を身につける。
- 4 学部基礎科目および専門教育科目の英語に関する科目の履修を通して、環境の分野で英語による情報収集や基礎的なコミュニケーションができる能力を育成する。
- 5 環境科学や技術者の倫理に関わる専門教育科目を履修し、環境分野の専門家として社会に対する責任についての高い見識を養う。
- 6 環境計量、生態・生体影響、食の生産および環境保全に関する科目を総合的に学び、環境分野の専門家として論理的思考力と問題解決能力を養う。

1年次には、教養科目と学部基礎科目、2年次には、フィールドワークや食と人間の健康に関わる専門教育科目を段階的に学ぶ。3年次には、多様な実習や専門科目を履修

して、社会に対する責任を理解し環境分野の専門家として活躍できる能力を養う。4年次には、これまでに培った知識や技能を生かして、卒業論文作成を行うことで専門性を高め、セミナーや発表会などを通してプレゼンテーション能力を育成する。

学修成果の評価は、各科目の到達目標に対応して行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/food-nutrition/nut-policy/>)

(概要)

(食品生命科学科)

食品生命科学科は、次のような学生を求めている。

- ・食と健康に関心が高く、食を通して社会に貢献したいという意欲のある人
- ・探求心があり、将来、食品技術者・研究者として活躍したい人
- ・自ら考えて学ぶ意欲があり、地球的視点から多面的に物事を考えることができる人
- ・専門的な知識と実践的な能力を身に付け、食品技術者として活躍することを目指す人

食品科学とその基礎をなす数学、物理、化学、生物学の習得に必要な学力を有し、食品の生産、開発、評価に必要な技術や、技術者として求められる探求心、論理的な思考力、多様な人々と連携・協働するためのコミュニケーション能力、総合的な問題解決能力を身に付けられる人を求めている。

(栄養生命科学科)

栄養生命科学科は、次のような学生を求めている。

- ・食と健康に関心が高く、人々の健康増進と保健・医療へ貢献したいという意欲がある人
- ・栄養科学の専門家として、情報収集能力、論理的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力など、実社会で活躍するための実践的な能力を身につけたい人
- ・病院、行政、小中学校等において管理栄養士または栄養教諭として活躍するために必要な基礎および専門的な知識と実践的な能力を身につけたい人
- ・高度な専門知識と能力を身につけ、研究者、高度専門技術者、指導的立場を担う管理栄養士を目指す人

栄養科学とその基礎をなす数学、物理、化学、生物学の習得に必要な学力を有し、管理栄養士に必要な技術や、栄養科学分野の技術者として求められる探求心、論理的な思考力、多様な人々と連携・協働するためのコミュニケーション能力、総合的な問題解決能力を身に付けられる人を求めている。

(環境生命科学科)

環境生命科学科は、次のような学生を求めている。

- ・食と健康に関心が高く、より良い環境の創造を通して社会に貢献したい人
- ・フィールドワークや実験を根気強く行う忍耐力や集中力を有する人
- ・コミュニケーション能力を有し、他人と協調して自ら積極的に行動できる人
- ・環境に関する地域の課題からグローバルな問題、さらには微生物からヒトまでの生命のしくみについて幅広い興味を有する人
- ・高度な専門知識と能力を身につけ、研究者や高度専門技術者として指導的立場を担う環境の専門家を目指す人

環境科学とその基礎をなす数学、物理、化学、生物学の習得に必要な学力を有し、環境に関わる諸問題の解決に必要な技術や、技術者として求められる探求心、論理的な思考力、多様な人々と連携・協働するためのコミュニケーション能力、総合的な問題解決能力を身に付けられる人を求めている。

学部等名 国際関係学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/disclosure/ed-information/ ）
（概要） グローバル化に対応するために、多様な言語・政治・経済・文化等を理解・尊重し、国際社会において活躍できる人材を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/international-relations/int-policy/ ）
（概要） （国際関係学科） 国際公共政策、国際開発、共生社会のいずれかの専門プログラムを選択して科目を履修することを通じて以下の能力を身につけた学生に対し、学士（国際関係学）の学位を授与する。 1 国際関係にかかわる研究領域について、学術的読解・表現力、外国語によるコミュニケーション能力、実践的な地域研究能力、基礎的教養力等の基礎的な研究技法を身につけている。 2 国際関係にかかわる研究領域の学知に習熟し、その観点から特定の研究課題を発見し、必要な情報を収集・分析して、批判的かつ論理的な思考力によって深く探究できる能力と、その成果を地球上の他者と共有し得る能力を備えている。 3 地球社会、国家、地域社会がかかえる様々な社会的課題についての多角的な知識を有し、修得した研究技法を柔軟に応用することを通じて、国家間の関係を踏まえつつ、地球社会から地域社会に至る幅広い射程のもとで、社会の現状と実態を的確に理解することができる。 4 修得した学知を通じて、地球社会、国家、地域社会が抱える社会的課題に対して、その前提を批判的に再考したり、新たな課題を発見したりしながら、実社会の現場で、国家を問わず地球上の他者と協働して課題解決に取り組むことのできる実践的な能力を備えている。 （国際言語文化学科） グローバル・コミュニケーション、比較文化、日本研究、アジア研究、ヨーロッパ研究のいずれかの専門プログラムを選択し、所定の科目を修得することで学士（国際言語文化学）の学位を授与する。学位授与に際して以下の内容を重視する。 1 国際関係にかかわる研究領域について、学術的読解・表現力、外国語によるコミュニケーション能力、実践的な地域研究能力、基礎的教養力等の基礎的な研究技法を身につけている。 2 国際関係にかかわる研究領域の学知に習熟し、その観点から特定の研究課題を発見し、必要な情報を収集・分析して、批判的かつ論理的な思考力によって深く探究できる能力と、その成果を地球上の他者と共有し得る能力を備えている。 3 世界各地の言語と文化を深く探究することによって、異なる言語と文化についての豊富な知識を獲得するとともに、それらを的確に分析し、理解する能力を備え、世界的視点に立つ幅広い視野と柔軟な姿勢を身につけている。 4 多様な言語と文化の理解を前提とした実践的なコミュニケーション能力を獲得することを通じて、様々な言語文化的背景を持った人々と円滑に協働することができ、実社会の現場で、言語や文化の壁を越えて、人と人をつなぐ架け橋となり得る能力を備えている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ
<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/international-relations/int-policy/>）

（概要）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示される能力を有する人材を育成するため、以下の観点から教育課程を編成し、実施する。

- 1 本学部では、国家間の関係を踏まえつつ、国境や文化の壁を越えて人と人を結び、地球と地域の課題に協力して取り組むことのできる課題発見・解決型人材を育成するための体系的かつ順次的なカリキュラムを編成している。
- 2 本学部生は、低年次の基礎教育課程において、まず、国際関係学部で学ぶ基礎的な研究能力と社会人基礎力を身につけることを目標として学ぶ。
- 3 このために、本学部のカリキュラムでは、低年次において学生が身につけるべき基礎的能力を4つのラーニング・クラスター（アカデミック・リテラシー、英語コミュニケーション力、地域実践力、学部基礎力）として明示する。
- 4 学生はこれらの4つの能力をバランス良く身につけることを通じて、国境や文化の壁を乗り越えるコミュニケーション能力と、地球と地域の課題に取り組むことのできる課題発見・解決能力の基礎を形成する。また、低年次におけるラーニング・クラスターと高年次における専門プログラムを接続するためのブリッジ科目を学科ごとに定めている。これらを通じて、国際関係にかかわる多様な専門領域に触れて刺激を得ることで、将来進むべき専門プログラムを選択する準備を整える。
- 5 高年次においては、特定の専門プログラムを選択し、低年次において培った基礎的研究能力を実際に駆使しながら、それぞれのキャリアパスを見据えた専門的な学びを構築し、実社会の現場で活躍できる能力を完成させる。このために、国際公共政策、国際開発、共生社会（以上国際関係学科）、グローバル・コミュニケーション、比較文化、日本研究、アジア研究、ヨーロッパ研究（以上国際言語文化学科）の8つのプログラムを設置している。さらに各プログラムと連動した少人数演習（ゼミ）に分かれてその専門的な学びを重点的に深化させる。
- 6 最終的に、各学生が特定の研究課題を深く探究する卒業研究に取り組むことを通じて、課題の発見と解決に自力で挑戦することで、4年間の学びを総括し、卒業後のキャリア形成に繋げる。
- 7 教員免許状、日本語教員養成、社会調査士など、各種の資格等の取得に必要な科目を設置している。
- 8 授業内容を習得するために十分な学習時間を確保することを目的として、GPA（成績評価平均値）に基づくCAP（履修登録単位数制限）制を設定している。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ
<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/international-relations/int-policy/>）

（概要）

国際関係学部は、国際社会で活躍できる人材の育成を目指している。具体的には、地球規模の視点と地域規模の視点を兼ね備え、さまざまな課題に対して適切に判断を下して行動できる、21世紀型地球市民としての優れた人材の育成を目指している。そのために、以下のような学生を求めている。

- 1 国語、外国語、数学等の学習を通して、文章の読解力や表現力、コミュニケーション力、論理的思考力等を身につけている人。
- 2 地理歴史や公民等の学習を通して、国際関係を理解するための前提となる、さまざまな地域の歴史や社会についての基礎知識を身につけている人。
- 3 さまざまな分野に知的好奇心を持つとともに、主体的な問題意識に基づく探究心を持って、情報収集や考察を行える人。

- 4 21世紀の激動する世界の動向に関心を持ち、国際関係の専門領域を学びたいと考えている人。あるいは、国家の枠組みを越えた集団や個人間の多様な関係について学びたいと考えている人。また、それらの学習を通して、グローバル化した世界や地域で活躍したいと考えている人。
- 5 人と人との関わりに興味を感じ、他者理解に豊かな想像力を駆使できるとともに、日本をはじめとする世界のさまざまな地域の言語や文化について、深く学びたいと考えている人。また、それらの学習を通して、グローバル化した世界や地域で活躍したいと考得ている人。

学部等名 経営情報学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/disclosure/ed-information/ ）
（概要） 情報処理能力とマネジメント力を兼ね備えた、企業や地域社会に貢献することができる人材を養成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/management-information/man-policy/ ）
（概要） 学生は、所定の科目を習得することで学士（経営情報学）の学位を授与されるが、授与に際して以下の内容が重視される。 1 「経営」「総合政策」「情報」「観光」「数理」を深く学ぶことによって、それらを活用することができる能力を身に付けている。 2 自ら研究課題を設定し、必要な情報を収集・分析して、論理的な思考力によって課題を探究し、克服していく能力と、自己の見解を文字及び口頭で表現できる能力を備えている。 3 企業や地域社会への高い関心とそれらへの貢献に対する意欲を持ち、社会の様々な場で円滑なコミュニケーションを図ることができる。 4 習得した知識や技能を柔軟に応用し、実社会で十分に活躍できる能力がある。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/management-information/man-policy/ ）
（概要） 経営情報学部は、静岡県立大学学則に定める本学部の「人材養成等教育研究上の目的」を達成するため、以下の方針にしたがって教育課程（カリキュラム）を編成し、実施する。 1 「経営」「総合政策」「データサイエンス」「観光」の4分野の専門的能力及びそれらを融合的に活用できる能力を育成するため、教育課程を編成する。 2 授業の形態（講義・演習）と規模の適切な選択に基づき、効果的な教育方法を用いた授業を実施する。 3 「経営」「総合政策」「情報」「観光」「数理」「英語」についての基礎的な知識や技術について習得するための学部基礎科目を配置する。 4 「経営」「総合政策」「データサイエンス」「観光」について、より高度な専門性を身に付けるため、専門科目群を配置して、体系的・順次的に学習を進めるために配当年次を設定する。また、各分野の境界的・融合的な能力を身に付けるための複合科目を配置する。高度な専門性を身につけた学生に対して、「経営」「総合政策」「データサイエンス」「観光」のメジャーを認定する。 5 少人数で実施されるゼミに所属して、「演習」等によって特定領域の研究を深

<p>め、学修の成果を卒業研究として完成させる。</p> <p>6 高等学校教諭一種免許状「商業」「数学」「情報」、簿記検定試験などの資格取得に必要となる科目を設置する。</p> <p>7 授業内容を習得するために十分な学習時間を確保することを目的として、GPA（成績評価平均値）に基づくCAP（履修登録単位数制限）制を設定する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/management-information/management-policy/）</p>
<p>（概要）</p> <p>経営情報学部では、刻々と変化する現代組織の要求や課題に対して、「経営」「総合政策」「データサイエンス」「観光」の4分野の融合と専門性により、現代社会の各分野でイノベーションを担う問題解決型の人材を育成する。そのため、次のような学生を求めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ビジネスパーソン、組織マネージャ、アントレプレナー（起業家）など、企業におけるビジネスリーダーや、新規事業を創出する起業家を目指す学生 2 自治体・官公庁の職員を目指す学生 3 公営企業の職員やNPOなど非営利団体の経営スタッフを目指す学生 4 医療・介護の政策・経営を学び、医療機関や介護施設の経営スタッフを目指す学生 5 統計的知識を土台に多様で大量なデータ（ビッグデータ）から経営に役立つ価値を導き出すことができるデータサイエンティストを目指す人材 6 情報技術と経営・経済・法律等に精通したITコンサルタントなどを目指す人材 7 観光関連企業や団体の中核となる人材、あるいは、観光地全体の地域力を高める地域経営を担う人材などを目指す学生 8 商業、数学、情報の高等学校教員を目指す学生

<p>学部等名 看護学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/disclosure/ed-information/）</p>
<p>（概要）</p> <p>少子高齢社会の健康の護り手として人々の生活を支援するため、確かな看護判断能力と実践能力を身に付け、他専門職と協働して健康上の課題に創造的に対応できる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/nursing/nur-policy/）</p>
<p>（概要）</p> <p>下記の能力・資質を修得・涵養し、時代の要請と地域社会の要望に応え得る人材に学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幅広く深い教養を身につけ、「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境への関心を持つことができる。 2 豊かな人間性と倫理観を持ち、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。 3 あらゆる「ひと」と地域社会の健康課題とそれらに対する対応を統合的に考えることができる。 4 保健医療福祉のチームの一員として協働でき、地域社会の課題解決に取り組むことができる。 5 地域・国際的動向をふまえ、保健医療福祉の課題における看護の必要性と役割を理解し、責任ある行動を取ることができる。 6 看護学の発展に対応するために、探究心を持ち主体的に学ぶことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ
<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/nursing/nur-policy/>）

（概要）

本学部は、本学の卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・能力などの目標を達成するために、1 基礎分野Ⅰ、2 基礎分野Ⅱ、3 専門基礎分野、4 看護専門分野の教育科目群を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講する。

- 1 基礎分野Ⅰ：5学部横断型の全学共通科目として、広い教養と知識を学び、総合的かつ自主的な判断能力を養う。また、地域理解として「しずおか学」科目群の履修も必修とする。
- 2 基礎分野Ⅱ：地域・国際的動向をふまえた、保健医療福祉の課題に対応する看護実践の基礎となる能力を養うことを目的とする。「主体性と判断力の育成」「英語コミュニケーション」「運動」「研修」「教育」の5科目群からなる。
- 3 専門基礎分野：人間の健康、生活・社会の理解及び看護実践の基礎となる科学的知識を看護専門分野の履修に先立ち修得する。「人間と人間生活の理解」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の4科目群からなる。
- 4 看護専門分野：個人、家族及び集団の健康ニーズに対応した看護実践に必要な専門知識・技術の修得を目的とし、「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」「統合分野」の3科目群からなる。

「専門分野Ⅰ」

看護学の理念的理解と人間の健康生活を支援するための基本的な看護方法や技術を修得する。

「専門分野Ⅱ」

看護の基本的理念を基に、人間の発達段階と健康レベルに対応する看護方法について学ぶ。加えて少子高齢社会の進展や慢性疾患の増加、医療の高度化・専門化に対応した専門領域の看護方法についても学ぶ。さらに、演習を通して領域・分野毎の看護方法や看護技術を修得し、理論と実践の統合を目的とする臨地実習を行う。

「統合分野」

看護の基本的理念を基に、在宅・地域などの看護活動の場に対応する看護方法について学ぶ。そして、健康長寿延伸の取り組みや静岡型地域包括ケアに関連した演習や実習を通して看護方法や看護技術を学ぶ。さらに、4年次の「卒業研究」「発展看護実習」等を通じて、看護専門分野の教育内容の統合を図る。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ
<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/faculties/nursing/nur-policy/>）

（概要）

看護はあらゆる「ひと」を対象にし、すべての人々が健康な生活を実現できるように支援します。本学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために、次に掲げる知識・技能や能力、意思を備えた人を求めます。

- 1 日本語および英語による聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基本的な能力を身につけている。
- 2 ものごとを論理的に探求するために必要な高等学校の教育課程をバランスよく

修得している。 3 多様な価値観を尊重し真摯な態度で「ひと」に向きあえる。 4 地域社会に看護職者として貢献する意思を持っている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページに掲載 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/outline/organization/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
薬学部	—	20人	12人	24人	20人	人	76人
食品栄養科学部	—	20人	11人	1人	26人	人	58人
国際関係学部	—	24人	19人	6人	4人	人	53人
経営情報学部	—	14人	8人	3人	4人	人	29人
看護学部	—	11人	9人	11人	15人	人	46人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
人			258人				258人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：ホームページに掲載 https://db.u-shizuoka-ken.ac.jp/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
各学部で、外部講師及び内部教員による講演会・研修会を開催し、教員の能力向上を図った。 内容が全学的にわたるものについては、全学FD委員会が共催し支援を行った。 各学部で、教員相互の授業公開、学生による授業評価アンケートの実施及びフィードバック等を実施したほか、学生参加型意見交換会や学生個人面談も行った。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
薬学部	120人	121人	100.8%	640人	669人	104.5%	人	人
食品栄養科学部	70人	74人	105.7%	280人	296人	105.7%	人	人
国際関係学部	180人	200人	111.1%	720人	886人	123.1%	人	人
経営情報学部	125人	131人	104.8%	450人	492人	109.3%	人	人
看護学部	120人	120人	100%	530人	479人	90.4%	25人	1人
合計	615人	646人	105.0%	2,620人	2,822人	107.7%	25人	1人
(備考) 「編入学定員」欄の人数は「収容定員(C)」の人数の内数、「編入学者数」欄の人数は「在学生数(d)」欄の人数の内数である。								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
薬学部	100人 (100%)	22人 (22.0%)	78人 (78.0%)	0人 (0%)
食品栄養科学部	75人 (100%)	34人 (45.3%)	41人 (54.7%)	0人 (0%)
国際関係学部	195人 (100%)	5人 (2.6%)	172人 (88.2%)	18人 (9.2%)
経営情報学部	105人 (100%)	2人 (1.9%)	103人 (98.1%)	0人 (0%)
看護学部	119人 (100%)	8人 (6.7%)	111人 (93.3%)	0人 (0%)
合計	594人 (100%)	71人 (12.0%)	505人 (85.0%)	18人 (3.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
薬学部 (薬学科)	81人 (100%)	81人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
薬学部 (薬科学科)	20人 (100%)	19人 (95%)	1人 (5%)	0人 (0%)	0人 (0%)
食品栄養 科学部	76人 (100%)	74人 (97.4%)	1人 (1.3%)	1人 (1.3%)	0人 (0%)
国際関係学部	195人 (100%)	121人 (62.1%)	56人 (28.7%)	18人 (9.2%)	0人 (0%)
経営情報学部	109人 (100%)	100人 (91.7%)	8人 (7.3%)	1人 (0.9%)	0人 (0%)
看護学部	120人 (100%)	109人 (90.8%)	5人 (4.2%)	6人 (5.0%)	0人 (0%)
合計	601人 (100%)	504人 (83.9%)	71人 (11.8%)	26人 (4.3%)	0人 (0%)
(備考)					
<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度末に卒業した薬学部生は、薬学科と薬科学科の2学科一括募集を行い3年時に学科の振り分けを行っているため、振り分け後の人数を記載している。薬学科(6年制)の入学年度は、平成26年度、薬科学科(4年制)の入学年度は平成28年度である。 国際関係学部の留年者数が多いのは、休学して海外に留学する学生が多いためである。 					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要) ※様式第2号の3-1を再掲 【授業計画(シラバス)の作成過程】 各学部・研究科の教務委員を中心に構成される全学教務委員会において、授業計画作成のためのガイドライン(「静岡県立大学:シラバス作成のためのガイドライン」)及</p>
--

び作成スケジュールを審議・確認し、全学教務委員会から各委員（常勤教員及び非常勤講師）に対して、授業計画（シラバス）の作成を依頼している。

※ガイドライン：<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/media/guidelines-syllabus.pdf>

授業計画には、主に下記の事項について記載を求めている。

- ・授業目的（一般目標）…学生が学習によって得られる成果を記載する。
- ・到達目標…授業目的（一般目標）を達成するために必要とされる学生の行動目標を記載する。
- ・授業方法…配布資料の使用、講義、グループワーク実施などを明記する。
- ・授業展開（年間の授業の計画）…取り扱う内容を回ごとに記載する。
- ・成績評価の方法・基準…小テスト、期末テスト、レポートなどの評価方法及びその割合、評価基準を記載する。
- ・実務経験のある教員等による授業科目については、担当教員名に*を付すとともに、備考欄に「どのような実務経験をもつ教員等が、その実務経験を生かして、どのような教育を行うか。」を記載する。

【授業計画の作成・公表時期】

授業計画（シラバス）は6月以降、全学教務委員会で書式やガイドラインの内容を検討し、各学部12月より作成を開始している。2月中旬までに原稿を完成し、点検の後3月上旬に印刷会社に発注、3月末には履修要項の製本が完了し、4月初めの学部ガイダンスで学生に配布する。並行して4月初めには履修要項の全ページをホームページ上に掲載する。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）※様式第2号の3-2、及び3-4の一部を再掲

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

本学における学習評価は、履修細則及び担当教員の評価方針により、試験の成績、提出されたレポートの質の高さ、授業出席状況などの学生の学修実績に基づき、秀・優・良・可・不可または合格・不合格の評語で評定される。

評価の基準点数は、以下のとおりである。

- ・秀 …合格 : 100点～90点
- ・優 …合格 : 89点～80点
- ・良 …合格 : 79点～70点
- ・可 …合格 : 69点～60点
- ・不可…不合格 : 59点以下

秀・優・良・可または合格と評定されたものには、当該科目の単位が与えられる。なお、科目の履修登録をしたにも関わらず履修しなかった授業科目は、不可または不合格と評定される。各科目の具体的な評価項目については、シラバスに記載している。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

全学及び各学部が定めたディプロマポリシーを踏まえ、履修細則で定めた卒業要件に従い、卒業を認定している。各学部の卒業要件は以下のとおりである。

【薬学部】

(平成 30 年度以降入学生)

学科	教養科目	基礎科目	共通専門課程		学科専門課程		合計
			共通専門科目	共通専門実習科目	学科専門科目	学科専門実習科目	
薬科学科	8 単位以上	22 単位	70 単位以上	12 単位	10 単位以上	10 単位	132 単位以上
薬学科	8 単位以上	22 単位	70 単位以上	12 単位	35 単位以上	46 単位	193 単位以上

(平成 27 年度～29 年度入学生)

学科	教養科目	基礎科目	共通専門課程		学科専門課程		合計
			共通専門科目	共通専門実習科目	学科専門科目	学科専門実習科目	
薬科学科	8 単位以上	25 単位	79 単位以上	17 単位	2 単位以上	10 単位	141 単位以上
薬学科	8 単位以上	25 単位	93 単位以上	17 単位	11 単位以上	41 単位	195 単位以上

(平成 25 年度～26 年度入学生)

学科	教養科目	基礎科目	共通専門課程		学科専門課程		合計
			共通専門科目	共通専門実習科目	学科専門科目	学科専門実習科目	
薬科学科	8 単位以上	25 単位	79 単位以上	17 単位	2 単位以上	10 単位	141 単位以上
薬学科	8 単位以上	25 単位	93 単位以上	17 単位	10 単位以上	39 単位	192 単位以上

【食品栄養科学部】

(平成 31 年度以降入学生)

学科	全学 共通科目	学部 基礎科目	専門教育科目		合計
			必修科目	選択科目	
食品生命科学科	14 単位	30 単位	82.5 単位	12 単位以上	138.5 単位以上
栄養生命科学科	14 単位	30 単位	85 単位	17 単位以上	146 単位以上
環境生命科学科	14 単位	30 単位	52 単位	34 単位以上	130 単位以上

(平成 30 年度以前入学生)

学科	全学 共通科目	学部 基礎科目	専門教育科目		合計
			必修科目	選択科目	
食品生命科学科	14 単位	30 単位	85.5 単位	12 単位以上	141.5 単位以上
栄養生命科学科	14 単位	30 単位	83.5 単位	17 単位以上	144.5 単位以上
環境生命科学科	14 単位	30 単位	50 単位	36 単位以上	130 単位以上

【国際関係学部】

(平成 31 年度以降入学生)

科目区分			単位数			
			必修	選択 自由選択	合計	
全学共通科目				8 単位	124 単位	
専門教育科目	ラーニング・ クラスター	アカデミック・リテラシー		8 単位		
		英語コミュニ ケーション	フレッシュマンイン グリッシュ IA・B	6 単位		
			フレッシュマンイン グリッシュ IIA・B			
			英語コミュニケーシ ョン A・B			
	課題探究型英語 I	4 単位				
	課題探究型英語 II	4 単位				
	地域実践力	地域言語	8 単位			
		地域研究・フィ ールドワーク	8 単位			
学部基礎科目			8 単位			
ブリッジ科目				12 単位		
専門プログラム				20 単位		
自由選択科目				26 単位		
演習			4 単位			
卒業研究			8 単位			

(平成 30 年度以前入学生)

学科		国際関係学科		国際言語文化学科			
コース		国際政治経済	国際行動学	英米文化	日本文化	アジア文化	ヨーロッパ文化
全学	選択	8	8	8	8	8	8
	自由	22	22	22	22	22	22
専門	必修	26	18	26	18	22	22
	選択	68	76	68	76	72	72
計		124	124	124	124	124	124

【経営情報学部】

(平成 27 年度以降入学生)

学科	全学 共通科目	学部 基礎科目	専門教育科目		合計
			必修科目	選択科目	
経営情報学科	8 単位以上 16 単位以下	44 単位	12 単位	62 単位以上 70 単位以下	134 単位

- ※ 専門教育科目（選択）と全学共通科目を合わせて 78 単位を修得すること。
- ※ 平成 31 年度以降入学生は、卒業までに少なくとも 1 つのメジャー認定を受けること。

【看護学部】					
(平成 30 年度以降入学生)					
学科	・基礎分野Ⅰ (全学共通科目) ・基礎分野Ⅱの 「運動」、「研修」、 「教育」含む	基礎分野Ⅱ	専門基礎 分野	専門分野	合計
看護学科	選択 10 単位以上	必須 7 単位	必修 28 単位 選択 4 単位	必修 76 単 位	125 単位
(平成 29 年度以前入学生)					
学科	・全学共通科目 ・学部基礎科目の 「運動」「研修」 「教育」含む	学部基礎科目	専門教育科目	合計	
看護学科	選択 10 単位以上	必修 39 単位 選択 4 単位	必修 77 単位 選択 3 単位	133 単位	
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の 登録上限 (任意記載事項)	
薬学部	薬科学科 (平成 30 年度以降入学生)	132 単位	有・無	単位	
	薬科学科 (平成 27～29 年度入学生)	141 単位	有・無	単位	
	薬科学科 (平成 25・26 年度入学生)	141 単位	有・無	単位	
薬学部	薬学科 (平成 30 年度以降入学生)	193 単位	有・無	単位	
	薬学科 (平成 27～29 年度入学生)	195 単位	有・無	単位	
	薬学科 (平成 25・26 年度入学生)	192 単位	有・無	単位	
食品栄養科学部	食品生命科学科 (平成 31 年度以降入学生)	138.5 単位	有・無	単位	
	食品生命科学科 (平成 30 年度以前入学生)	141.5 単位	有・無	単位	
	栄養生命科学科 (平成 31 年度以降入学生)	146 単位	有・無	単位	
	栄養生命科学科 (平成 30 年度以前入学生)	144.5 単位	有・無	単位	
	環境生命科学科 (平成 31 年度以降入学生)	130 単位	有・無	単位	
	環境生命科学科 (平成 30 年度以前入学生)	130 単位	有・無	単位	

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の 登録上限 (任意記載事項)
国際関係学部	国際関係学科 (平成 31 年度以降入学生)	124 単位	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	直前学期 GPA3.0 以上 上限なし 直前学期 GPA3.0 未満 25 単位
	国際関係学科 (平成 30 年度以前入学生)	124 単位	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	直前学期 GPA3.0 以上 上限なし 直前学期 GPA3.0 未満 25 単位
	国際言語文化学科 (平成 31 年度以降入学生)	124 単位	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	直前学期 GPA3.0 以上 上限なし 直前学期 GPA3.0 未満 25 単位
	国際言語文化学科 (平成 30 年度以前入学生)	124 単位	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	直前学期 GPA3.0 以上 上限なし 直前学期 GPA3.0 未満 25 単位
経営情報学部	経営情報学科	134 単位	<input checked="" type="checkbox"/> ・無	直前学期まで の 通算 GPA3.0 以上 上限なし 直前学期まで の通算 GPA2.2 以上 3.0 未満 30 単位 直前学期まで の 通算 GPA2.2 未 満 24 単位
看護学部	看護学科 (平成 30 年度以降入学生)	125 単位	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	単位
	看護学科 (平成 29 年度以前入学生)	133 単位	有・ <input checked="" type="checkbox"/>	単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法：大学ホームページ (国際関係学部) https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/media/2019risyu-kokusai_01.pdf (経営情報学部) https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/media/2019risyu-keiei_01.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：ホームページに掲載 https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/campuslife/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページに掲載

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/campus-map/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
薬学部	薬科学科	535,800 円	141,000 円 (県内) 366,600 円 (県外)	0 円	
	薬学科	535,800 円	141,000 円 (県内) 366,600 円 (県外)	0 円	
食品栄養科学部	食品生命科学科	535,800 円	141,000 円 (県内) 366,600 円 (県外)	0 円	
	栄養生命科学科	535,800 円	141,000 円 (県内) 366,600 円 (県外)	0 円	
	環境生命科学科	535,800 円	141,000 円 (県内) 366,600 円 (県外)	0 円	
国際関係学部	国際関係学科	535,800 円	141,000 円 (県内) 366,600 円 (県外)	0 円	
	国際言語文化学科	535,800 円	141,000 円 (県内) 366,600 円 (県外)	0 円	
経営情報学部	経営情報学科	535,800 円	141,000 円 (県内) 366,600 円 (県外)	0 円	
看護学部	看護学科	535,800 円	141,000 円 (県内) 366,600 円 (県外)	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 全教員が学生生活の支援を組織的かつ総合的に行うため、学部ごとに学生数名に対して教員1名をアドバイザーとして配置しており、修学や学習に関する助言、学生生活や対人関係に関する助言などを行うアドバイザー制度を設けている。 また、障害学生支援室では、コーディネーターが障害を抱えている学生の修学上の相談に応じ、合理的配慮が必要であると判断された場合は、教員や事務局を交えて具体的支援を検討し、コーディネートしている。障害が無い場合でも、修学上の困り事などの相談に応じている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア支援センターを設置して、就職活動に関するガイダンス、講座等を開催している。また、就職アドバイザーを配置して学生の就職・進路の相談に個別に相談を受けている。大学に送られてくる各企業、病院・施設、団体等からの求人票、公務員等の採用試験案内等を学生に情報提供する他、先輩の就職活動報告書、就職活動対策書籍、就職関連資料、パソコンなどがあり、キャリア支援センター内の資料は自由に閲覧・利用ができる。利用可能時間は、毎週月曜日～金曜日、午前8時30分から午後5時まで。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

医務室では、軽い怪我や病気の応急処置、定期健康診断後の保健指導、健康相談などを行っている。

健康増進室では、体脂肪率・BMI（体格指数）・血圧・血管年齢などの健康度測定ができるほか、エアロバイク・バランスボール等の軽い運動をしたり、マッサージチェア等を利用してリラックスすることもできる。また、健康（体とこころ）相談も行っている。

相談室では、学業や対人関係等の悩みを抱える学生に、公認心理師等の資格をもった相談員が対応している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページに掲載

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/>